

岐阜大学地域交流協力会

事務局／岐阜大学産学官連携推進部門内

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
TEL.058-293-3187 FAX.058-293-2032 E-mail ccr-jimu@gifu-u.ac.jp

1 岐阜大学地域交流協力会が「岐阜大学フェア2022」を共催

今年度は11月4日(金)に岐阜大学全学共通多目的ホールで開催されました。岐阜大学フェアと同時開催となり3回目を迎え、今年度も3部構成での開催となりました。

講演は、ホールでのリアル講演会に加えてウェビナーでの同時配信も行い、遠隔地の方や時間的に岐阜大学までご来学頂けない方にも多くオンラインで参加をして頂きました。

【第1部】岐大フェア：最近話題のテーマの2講演

【第2部】産学連携フェア：企業の皆様との共同研究のさらなる拡充に向けて

【第3部】地域交流協力会：秋の特別講演会

「企業における標準化の戦略的活用のために」

日本規格協会 標準化アドバイザー 太田道也氏

岐阜大学フェア 2022 11/4 (Fri)

参加無料

岐大フェア 講演 10:00-11:50

大藪千穂 副学長/教育学部 教授
「物価のカラクリ～物価は下がった方がいい?」

11:00-11:50

平島一輝 高等研究院 特任助教
「身近な植物から薬へ～フキノトウの抗がん活性～」

産学連携フェア 研究紹介 13:00-14:45

武野明義 工学部 教授
物質中の泡が作り出す技術革新の基盤

入澤寿平 工学部 准教授
「作るエコ」「使うエコ」を両立した炭素系プラスチック複合材料開発

木村浩 工学部 准教授
クレイ水分散液を用いた透明物理ゲルの作製

深井英和 工学部 准教授
ICTと深層学習による路面性状評価統合システムの開発

池田貴公 工学部 助教
自律搬送ロボットのためのジェスチャインタフェース

岐阜大学地域交流協力会秋の特別講演 15:00-16:45

太田道也氏 日本規格協会 標準化アドバイザー
「企業における標準化の戦略的活用のために」

【第1部】の岐大フェアでは吉田学長ならびに松尾機構長の挨拶に続き、最近非常に関心が高まっている二つのテーマについての講演が行われました。

- ・「物価のカラクリ ～物価は下がったほうがいい?～」
教育学部 大藪 千穂 教授
- ・「身近な植物から薬へ ～フキノトウの抗がん活性～」
高等研究院・医学部連合創薬医療情報研究科 平島 一輝 特任教授

【第2部】の産学連携フェアでは「SDG s時代の産業と技術革新の基盤構築」を主テーマに、王副学長の挨拶、矢部産学官連携推進部門長の取り組み紹介に続き、5つの研究紹介が行われました。

- ・物質中の泡が作り出す技術革新の基盤 工学部 武野 明義 教授
- ・「作るエコ」と「使うエコ」を両立した炭素系プラスチック複合材料開発 工学部 入澤 寿平 准教授
- ・クレイ水分散液を用いた透明物理ゲルの作製 工学部 木村 浩 准教授
- ・ICTと深層学習による路面性状評価統合システムの開発 工学部 深井 英和 准教授
- ・自律搬送ロボットのためのジェスチャインタフェース 工学部 池田 貴公 助教

2 秋の特別講演会の開催

「岐阜大学フェア2022」の共催企画として【第3部】において「秋の特別講演会」を開催し、地域交流協力会顧問である吉田岐阜大学学長にご挨拶をしていただきました。

- ・ポストコロナに向けて、少しずつ対面で地域交流会を行う体制を整えてくるのが出来た。
- ・会員動向としては、令和4年度になってから4社が新規に入会し、企業会員数は175社になった。賛助会員も含めると241会員となり令和3年度当初から12会員増加した。

「企業における標準化の戦略的活用のために」

講師 日本規格協会 標準化アドバイザー 太田道也氏

【講演概要】

本日は主に、中小企業・中堅企業のビジネスツールとして標準化を支援する経済産業



吉田学長挨拶

省の「新市場創造型標準化制度」の活用を中心に説明と事例紹介をさせていただきます。

「新市場創造型標準化制度」は既存の業界団体等では対応できない複数の関係団体に跨る融合技術や特定企業が保有する先端技術の規格化を図るもので、中小企業・中堅企業が保有する優れた技術をJISやISOに規格化することを支援する制度です。

この制度を活用していただく上で、私たち日本規格協会(JSA)が取り組んでいるのは、「中小企業の相談窓口として、規格開発を後押し」「パートナーシップ制度の推進」「新市場制度の活用による地域の中堅・中小企業等の標準化支援」「多様な規格ニーズに柔軟に対応すべく、JIS規格に至らない民間規格・JSA規格の策定への対応」です。

当制度がスタートし、2015年から2022年10月末までにすでに55件が採択(そのうち、2022年度は5件採択)されており、本日はその中から3件を事例紹介させていただきます。



講演する太田講師

- ① CYBERDYNE株式会社：重労働の負担軽減、生活支援を目的にパワーアシストスーツの標準化を提案。類似の複数企業も参画し、2015年12月にJISC(日本産業標準調査会)に採択され、2017年10月にJIS規格となりました。世界的に類似した機器は製品化されていないため、諸外国における市場の創出・拡大が期待される。
- ② 株式会社田中電気研究所：低濃度ダスト濃度の自動測定器の性能評価方法の標準化を提案し、2016年7月にJISCに採択、2018年1月にJIS規格となり、その後取引先の拡大に寄与している。
- ③ 東京電力カプセル&パワー株式会社：火力発電所の運営・保守の品質に関する規格の標準化を提案し、2016年12月にJISCに採択、2020年3月にJIS規格となり、中長期的な電力供給の安定化、環境負荷の影響の最小化に貢献している。

当制度を通じて規格化された場合には、提案された企業の「社名入りJIS規格票」として表紙には企業名を、そして裏表紙には関連機器の写真、特長、使用事例等も掲載することが出来、JIS規格書自体を強力な営業ツールとして活用することも出来ます。特殊組版で更にブランドイメージをアップさせることも可能です。

標準化を通じて市場での信頼性確保や技術の差別化等、ビジネスに有効な手段として活用をお考えの皆様からのご相談を承っていますので、是非一般社団法人日本規格協会・標準化コンサルティングユニット 標準化相談室までご連絡下さい。

3 10月17日幹事会を開催

岐阜大学 学術研究・産学官連携推進本部 ミーティングルームにて令和4年度第2回幹事会を開催しました。本年度上半期の活動内容(R&D向上促進事業、出前セミナー、会員の状況等)および予算執行状況、今後の活動計画(産学連携フェア、ラボツアー等)の報告・審議と秋の特別講演会などの説明が行われました。また、アウトリーチ活動の強化として、地域交流協会HP、会員企業紹介冊子の扱い、SNSによる情報発信について検討を行っている旨報告をしました。その後、幹事の皆様から各会員企業様の状況についてご報告頂き、意見交換を行いました。

なお、今回の幹事会も新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、Web会議と併用で開催。岐阜大学での参加が10名(代理出席1名を含む)、Web参加4名であり、他に委任状5名で会議は成立しています。

4 令和5年度総会開催案内

【開催日】 令和5年5月23日(火)

【場所】 じゅうろくプラザ 岐阜市橋本町1丁目10番地11

【スケジュール】 令和5年度総会 (14:00 ~ 14:45)

記念講演会 (15:00 ~ 16:45)

協力会フォーラム・交流会 (17:00 ~ 18:30)

残念ながら新型コロナウイルスの収束は未だ見通すことが出来ず、来年度もWeb配信との併用(最悪の場合はWeb配信のみ)を実施する計画です。また、協力会フォーラム・交流会については、現時点では開催の方向で検討していますが、状況により変更・中止の場合もあります。

春の記念講演会では、未来工業株式会社 代表取締役社長 山田雅裕氏のご講演を予定しています。昭和40年(1965年)の創業以降「常に考える」を社業の企業理念とし、独自のアイデアで常に新しいものづくりを続けることにより業績を拡大しつつも、「1日の就業時間は7時間15分」、「残業ゼロ」、「年間休日140日」といった独自の経営方針を維持し、各種メディアにホワイト企業として注目されている未来工業株式会社の4代目社長として、事業承継への取組みをテーマに講演をしていただきます。